



みどり



145号 『ウイルス性肝炎』

2020年4月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1

<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

今月は「ウイルス性肝炎」についての話題をお届けします。

ウイルス性肝炎の種類

肝炎にはウイルス、アルコール、薬物、脂肪肝など様々な原因がありますが、今月はその中でも最も大きな割合を占めるウイルス性肝炎について説明します。

経過からの分類

- ・急性肝炎・・・A型、B型あるいはE型肝炎ウイルスが原因になります。急性の経過で肝細胞が障害され、発熱や全身倦怠感、黄疸などの症状を呈します。
- ・慢性肝炎・・・B型やC型肝炎ウイルスが原因です。長期間にわたって徐々に肝臓が線維化し、肝機能障害が進みます。

ウイルス性肝炎の検査

採血で血中のウイルスに対する抗体やウイルスの抗原の有無を調べ、現在、感染しているかどうか、過去に感染したことがあるのかを調べます。現在の感染が判明した場合にはウイルスのRNA量を調べ、肝臓の機能を反映する肝酵素や血小板数などを測定します。

慢性肝炎では肝臓の状態を調べるために、細

い針で肝臓の一部の組織を採取する「生検」が行われることもあります。

それぞれのウイルス性肝炎の特徴

○食べ物を介して感染する肝炎

A型肝炎

ウイルスに汚染された水や食べものを介して感染する肝炎です。発熱、全身倦怠感などの感冒様症状を呈しますが、これらの症状は一過性で、普通はやがて治癒します。

患者さんの発生状況はその国や地域の衛生状態の影響をうけるので、下水の設備が整っていない海外（東南アジア、中南米、アフリカなど）に旅行する時には、渡航前にA型肝炎ウイルスワクチンを打つことが勧められています。

E型肝炎

イノシシや豚、鹿などが持っているウイルスが原因です。症状はA型肝炎に似ています。予防はウイルスをもっている動物の生肉の摂取をさけることです。

○血液や体液を介して感染する肝炎

B型肝炎

B型肝炎ウイルスは急性肝炎も慢性肝炎も起こします。

入れ墨やピアスの穴あけ、性行為、出生時の産道での感染等、血液や体液を介して感染します。

急性肝炎では感染して1～6ヶ月の潜伏期間の後、全身倦怠感、食欲不振、悪心、黄疸などが出現し、多くの場合は数週間かけて自然に回復します。

しかし1%以下と頻度は少ないものの、短期間（8週間以内）のうちに急速に高度の肝機能障害をきたす「劇症肝炎」をおこし、生命に危険が及ぶ状態となることもあります。

出生時や3歳までの幼い時期に感染した場合は、免疫機能が発達していないので患者さんの体の中でウイルスが共存し、思春期以降にウイルスを敵と認識する免疫の機能が発達すると、自分の免疫細胞が肝臓の細胞を攻撃して肝炎がおこります。この炎症が持続して肝硬変や肝細胞がんに進展する場合があります。

B 型肝炎の治療

急性肝炎では食欲不振に対する補液などの対症療法が治療の中心です。慢性肝炎では長期間ウイルスの活動を抑えて、重症の状態にならないようにすることが目標です。

慢性 B 型肝炎では抗ウイルス作用のあるインターフェロン（ウイルス感染時に体内で産生される抗ウイルス作用があるタンパク質）の注射や、ウイルスの増殖を抑えるや核酸アナログ製剤が使われます。劇症肝炎では血漿交換療法、透析、肝移植が行われることもあります。

予防には B 型肝炎ワクチンがあり、2016年10月からは乳幼児の定期的予防接種にも含まれています。

C 型肝炎

B 型肝炎と同様、血液や体液を介して感染す

る肝炎で、日本にも150～200万人の患者さんがいるといわれています。

感染すると70%くらいの人が知らないうちに持続感染者となり、20～30年かけて肝炎、肝硬変、肝臓がんへと進行していきます。C型肝炎に感染してもそれだけでは症状がないことが多いため、食欲不振や全身倦怠感、黄疸や腹水が出現してC型肝炎を発見されることも珍しくはありません。慢性肝炎、肝硬変、肝がんの患者さんのうち、半数以上がC型肝炎感染者だといわれています。

C 型肝炎の治療

C型肝炎の治療の目的は、体内からC型肝炎ウイルスを排除することです。

日本では少し前まではインターフェロンの注射薬が治療の中心でしたが、2014年からはインターフェロンを使わない飲み薬（直接作用型抗ウイルス薬）での治療が主流になっています。

この薬は90%以上のC型肝炎ウイルスを排除できるといわれていますが、副作用や、相互作用で一緒には内服できない薬もあるため注意が必要です。

表 1: 血液で感染する肝炎の予防のために

<ul style="list-style-type: none">・血液が付着する可能性がある歯ブラシやカミソリは共用しない。・素手で他人の血液に触らない・注射器や注射針を共用しない・ピアスや入れ墨をする時は、消毒された器具を使う

* * * *

近年、特に慢性肝炎には次々と新しい薬剤が登場してきており、今後も治療法が進歩していくことが期待されます。

(文責:池田祥恵)